

特別支援教育部会

**平成30年度
1月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	1月	29人	千葉市教育会館

内 容 : 特別支援学校の紹介と進路指導や居住地校交流について

会 場 : 千葉市教育会館 302・303

講 師 : 県立千葉特別支援学校

就労支援コーディネーター 伊藤政幸先生

センター的機能コーディネーター 能登谷可子先生

千葉市立養護学校

地域支援コーディネーター 小林英清先生

1 居住地校交流の取り組みについて

○居住地校交流の一番のねらいは、地域で生きていくためのつながりをつくること。

○居住地校交流は小学校だけに限らず、中学校でも行っており、実施人数は徐々に増えてきている。

○交流校の児童が、生活単元学習の一環として特別支援学校に交流に行くこともある。

○年に1回、居住地校交流実施校連絡協議会を設け、一年間の取り組みを振り返り、次年度へ向けての意見・情報交換を実施している。

2 進路指導について

○進路指導主事は学校内の担当者、就労支援コーディネーターは学校内も含め県内の進路指導に携わっている。

○県内で実習先は約 21,000 社あり、障がい者雇用率は増加しているものの、就職先の見極めは重要である。離職者も多い。

○企業が求める人材として、おおまかに以下4点を挙げる。

- ・働く気持ち…本人の意欲
- ・基本的就労習慣…あいさつ、返事、報連相
- ・良い生活習慣…健康管理
- ・人柄…素直な態度、正直さ、コミュニケーション能力

○身辺自立は将来の基盤となるため、小学校段階から洗面・衣服の着脱・食事・排泄等を学ぶ必要がある。

3 千葉市立養護学校について

○学区は中央区・若葉区・緑区・轟町小学校区であり、多くの生徒はスクールバスによって登校している。

○高等部からコース制になっており、身辺自立・生活自立・社会自立を目指す3つのコースからなっている。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	1月例会	33人	千葉市立新宿小学校

【げんきキャンプ実施内容報告】

げんきキャンの日程や取り組んだ活動内容、おすすめの活動について、各学校から報告していただきました。

○おすすめの活動

<スカイゴルフ>

- ・フリスビーのようで軽く、力のない児童でも飛ばすことができ、自然の家で借りることもできる。

<ドラえもんをテーマに活動>

- ・学校で踊ったことのあるドラえもん（星野源）をげんきキャンプでも踊った。

ナイトハイクでは、ヒミツ道具を探しに行く設定で行った。

<ボッチャ大会（Tスロー）>

- ・交流レクで実施。Tスローはボッチャを簡単にしたようなもので、ルールも簡単でみんなで楽しめる。

<ざりがに釣り>

- ・たくさん釣れて楽しかったという学校と、なかなか釣れなかったという学校に分かれた。夏の暑すぎる時期だと難しいかもしれない。

<水鉄砲作り→水遊び>

- ・30分ほどで作ることができ、その場で遊ぶことができるので、夏にはおすすめ。

<餅つき大会>

- ・季節の行事、昔の生活を経験させたいと思い、計画した。

<織姫や彦星を救え！水遊びゲーム>

- ・7校合同で実施。ゲーム1は水鉄砲や水風船で的に当てるゲーム。ゲーム2はスイカを守るために敵の背中の的に水鉄砲や水風船で狙うゲーム。最後はみんなでスイカ割りをして食べる。

<スタンプラリー>

- ・自分たちで用意した宝を探していくスタンプラリー。

<ホットドック作り>

- ・キャベツを切る、アルミホイルで包む、牛乳パックに入れて火をつける、という簡単な流れでできるので、調理経験の少ない低学年でも主体的に楽しく取り組める。

<おにぎり・豚汁作り>

- ・子どもの実態に合わせて、炊き出しのご飯をラップでおにぎりにするグループと、豚汁を作るグループに分かれると、それぞれの課題にあった楽しい活動になる。

<うどん打ち>

- ・lowの子はこねる触感を楽しみ、highの子はのし棒で伸ばしたり麺を切ったりする経験ができてよかった。

<自然の家以外で利用した施設>

- ・こてはし温水プール・あさひボウル・アクアリンク（ワンポイントレッスン）・カンドゥ・こどもの国・昭和の森・泉自然公園・ファンタジーキッズリゾート（11月に閉店）・ちば公園（ボート、カフェハーモニー）、千葉市子ども交流館（入館パスが必要）・萩原交通公園・大和久農園（芋掘り、夏ミカン狩り→ジャム作り）

○質問など

- ・お風呂の指導はどのようにしているか？→学習参観で扱い、家庭に協力を依頼。校外学習で銭湯に行く学習。
- ・公共交通機関で行くには？→茂原駅まで電車で行き、バスに乗車。「千葉市少年自然の家入口」で下車後、徒歩約20分。

◎資料など準備していただいた先生方、ありがとうございました。



ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	1月例会	28人	千葉市立山王中学校

テーマ「年間の取り組み総括」

1. H30 年度の例会について

各月ごとに開かれた例会のテーマや話し合った項目などの振り返りの話を伺った。

また次年度に向けての教材研究の情報交換を行った。

- ・コンピュータを使った社会科のソフト（千葉市について、人物や食べ物）
- ・電子黒板を使っての一問一答、日本地図パズル
- ・無料の国語、数学のプリント（ちびむすドリル）
- ・音響ソフト

2. 質疑応答と補足説明

次年度の例会でどのようなテーマを増やしたらよいかの質疑応答を行った。

3. 参加者アンケートより

- ・教材として使えるソフト、手作りしたソフトなどを紹介していただいたのがよかった。
- ・一年間、先輩教諭の話を聞いたり、授業を見たりしたことがよかった。
- ・高校の学校見学が今後もあれば参加したい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	1月例会	28人	高洲第三小学校

1. 諸連絡

2 絵画語彙検査の検査法について（高洲第三小学校 野村絵美先生）

- ・12歳3か月まで適応。生活年齢のところから開始する。
- ・それ以上の年齢の子を就学指導委員会に上程したい時は、参考資料として載せることができる。
- ・検査者は、ポーカークフェイスでなければならない。どの答えに対しても同じ反応をするように心掛ける。
- ・「こぐ」を「こぐもの」などと言い換えてはいけない。ただし、「これをごらんさい。」などは、普段聞きなれない言葉なので、「これを見てください。」などに言い換えても差し支えない。
- ・DK（わからない）とNR（無反応）を正しく判定する。NRは5秒待ってから「すこしむずかしいですね。」と正しい文言で対応する。
- ・行動観察で気になった点も記録する。「すぐ飽きる。」「当てずっぽうで答える。」など。
- ・千葉県こども病院や他の医療機関などで検査していないか確認する。
- ・SS10が平均値。ことばでは、SS6以上ならば、そのまま上程でもよい。
- ・きこえでは絵画語彙検査と合わせて読書力検査も行っている。

3 質問一応答関係検査の検査法について（検見川小学校 林公恵先生）

- ・概ね2歳～6歳くらいまでの幼稚園児を対象とし、会話能力の発達段階を知ることができる。
- ・所要時間が10分～30分程度の短い時間ででき、※だけ行う簡易版もある。
- ・初めて子育てしている保護者にとっては、我が子がどのくらいの発達段階なのかかわからないことが多いため、「お子さんは、今〇歳くらいの会話ができています。」と説明することができる。
- ・検査の内容を知っていると、関わりの中でその子にとっての適切な学び方、教え方が分かる。
- ・質問の仕方は、正解を前にし、後にしないようにする。「はれ」が正解の場合、「今日は晴れかな、くもりかな？」
- ・ITPA検査があるが、今から研修するならば、LCSAを学ぶとよい。

4 上程資料の書き方について（検見川小学校 林公恵先生）

- ・発音記号をみると構音点がわかるようになっているので、上程資料では、正しく発音記号を記述する。
- ・長文で書かず、一文を短く簡潔に記述する。
- ・所見を読めば、すぐ言いたいことが分かるようにする。この子をどうしたいのか、自分としての見解を書く。
- ・上程資料は、ケース会議を開き、管理職にも回覧してから上程する。
- ・幼稚園へ児童の様子を聞けない場合は、委員会からも幼稚園へ協力をお願いしていく方針である。

5 講師講評（千葉市養護教育センター 高瀬景子指導主事）

- ・検査は何のためにするのかを大前提に考えてほしい。検査をしなければその子が分からないというのは間違いである。自己紹介や行動観察の中にも把握できることがたくさんある。その上で自分達の把握した実態が合っているか検査をすることが筋である。
- ・日頃から、在籍校、保護者、担任、通級担当が連携し、その子にサポートをしてほしい。その上で養護教育センターにつないでほしい。
- ・養護教育センターでは、「読み書きスクリーニング検査」や「特異的発達障害診断治療のためのガイドライン」を使用して検査を行っている。
- ・ベテランの先生を中心に拠点校を作り、提携校の先生方が相談できる体制を作っていくとよい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	1月	14人	千葉市養護教育センター

1 今年度の活動の感想

○今年度は「キャリア教育」について研究を行った。

3つのグループに分かれて話し合い発表し合った。

- ・キャリア教育については、学校での指導の進め方や、生徒が自分への気づきになるような指導について考えることができた。
- ・施設見学(千葉障害者就業支援キャリアセンター)は、卒業後のサポートについて学ぶことができた。サポートが充実しているので、学校段階では今を大事にして支援したいと感じた。また、学校との連携が大切なことを知った。
- ・授業研究では、通常学級で通級指導教員が授業を行うという新しい試みを見ることができて勉強になった。表情カードなどのツールを使って丁寧に授業展開をしていた。
- ・事例検討では、障害別にどんな能力をつけるとよいのかがわかった。

2 次年度の活動の検討

3つのグループに分かれて話し合い発表し合った。

- ・テーマについては県教研発表があるため、今年度同様にする。
- ・講師については特に意見はなかった。
- ・研究内容については、通級指導教員だけでなくいろいろな先生が興味を持ってくれる内容にしたい。
 - ① キャリア教育について学習を深めたい、通級指導教室での授業研究、卒業生の予後について。
 - ② 医療関係者の話を聞きたい。桜木園の柿沼先生等
 - ③ 教材の紹介、使える手立て
 - ④ 高校の通級指導に関する情報
 - ⑤ 放課後等デイサービスとの連携や手続き
- ・来年度の推進委員は継続。

特別支援教育部会

**平成30年度
11月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	11月	20	千葉市教育会館

内 容 : 教材や実践の紹介、教育課程等についての情報交換会

講 師 : 千葉市立 稲毛小学校 校長 吉岡 龍子 先生

教材や実践の紹介

- ・算数・・・「長さ比べ (cm、mm)」、「的あて遊び (数の計算)」、「手作り時計」
- ・国語・・・「じっちょりんのあるくみち (物語)」
- ・図工・・・「ラーメン作り (粘土)」、「鬼ごっこ (絵画)」
- ・生単・・・「食事のとり方 (栄養バランス、食事量)」
- ・体育・・・「エリアシュートゲーム (ボール運動)」

など、各学校の様々な教科の実践を紹介しあった。

教育課程等についての情報交換会

- ・自立活動の例・・・SST、上履き洗い、排泄の訓練等
- ・公会計化・・・異動等で子どもの実態があまりわからない中で立てた計画を立てなければならないのが大変。実態が変わったが、計画していなかったものが買えない。→予算をあらかじめ多く見積もる。
- ・性教育について・・・県立柏特別支援学校 高瀬初美先生の本がおすすめ。
- ・道徳や英語の位置づけについて
- ・子どもの表われの中にあるベースを分析していく必要がある。成功体験を積み重ねる。

講師指導

- ・英語は低学年の指導方法 (内容) を参考にすると良い。(歌、ダンス、ゲーム等)
- ・道徳は実態に応じて、身近なものを教材化することもできる。(ルール、挨拶・返事、いいところ探し等)
- ・自立活動・・・6区分27項目を参考に、個に応じた指導を考える。
- ・交流および共同学習・・・4月ごろの職員会議等で学校内での位置づけを周知する。
- ・知的・自閉情緒の違い・・・知的学級、自閉情緒学級に担任が一人つく必要性を説明できるようにする。そのためにも、時間割の違いを出すことは大切。

次回例会 日付	会場校	内容
1月15日 (火)	千葉市教育会館 302 303	千葉県立特別支援学校の紹介、進路指導、居住地交流等について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	1 1 月例会	5 4 人	千葉市立宮崎小学校

○授業者より

- ・苦手なことに参加しようとしないう子や基本的な動きが苦手な子がいるという実態があった。そこで、主体的に取り組むことで運動経験を積み重ね、基本的な動きを総合的に身に付けさせたいと願い、テーマ設定や活動の場の工夫を行った。
- ・社会科と生活科、図工を関連させて、テーマ設定を行った。
- ・自分たちで活動の場を考えて作ることで、主体的に運動できた。
- ・実態差が大きいので、難易度の異なるコースを2つ用意した。



○グループ協議 ☆学習意欲を喚起するテーマの設定

<良い点>

- ・他教科と関連してテーマを設定したことで、子どもたちが主体的に運動に取り組むことができていた。
- ・子どもたち一人一人が場を担当したことで、「～くんが作った〇〇が楽しかった。」という発表があった。

<改善点>

- ・テーマを千葉市に限定した方が、子どもたちにとっても身近で、考えやすかったのではないかな。

☆楽しみながら活動に取り組むための場の工夫

<良い点>

- ・難易度を変えていたので、どの子も主体的に運動に取り組んでいた。
- ・テーマに合った BGM が流れていることで、雰囲気作りもされていてよかった。
- ・場に様々な動きが取り入れられていたので、「多様な動き」につながっていた。
- ・ポプラタイムで、自分がやりたい場を選べていてよかった。



<改善点>

- ・前半のチーバ君タイムと後半のポプラタイムで変化がなかった。上手な子を手本に見せたり、後半に技能面のめあてをもたせたりしてもよいのではないかな。
- ・達成感を感じられるようなめあてを1つでももてるとよいのではないかな。
- ・場が多いことで安全面が心配だった。
- ・場が多いことで、友達の動きを見ることができていなかった。友達の動きを見て学ぶこともあるのではないかな。
- ・ペア活動を入れてもよいかもしれない。
- ・今後ずっと同じコースだと飽きてしまうと思うので、難易度を上げてよい。
- ・ふりかえりはノートに◎○△だったが、模造紙は全員同じよいのか。
- ・セーフティーマットへの着地の仕方など、最低限の技能は教えた方がよい。



○講師より

- ・連続性のある多様な学びの場における指導が重要であり、生活との結びつきを大切にする必要がある。
- ・発達段階に応じて、基礎的なことを積み上げて指導するボトムアップと、必要なことを絞り込んで指導するトップダウンの両方のバランスが大切。
- ・教師にやらされるのではなく、自分たちで作ったという満足感があり、飽きずに主体的に動いていた。

◎授業者の宮崎小学校、竹内先生、難波先生ありがとうございました。

次回例会 日付	会場校	内容
1 月 1 5 日 (火)	千葉市立新宿小学校	げんきキャンプの実施内容報告

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B ブロック	1 1 月例会	2 9 人	千葉市立椿森中学校
1、研修内容 授業見学 自閉・情緒障害学級生徒の自校通級・社会科指導 講師 稲浜小学校 千葉 直敏 校長先生 単元名 日本の諸地域 「近畿地方」 2、協議会 ①授業者より - 生徒の実態と学習について - 授業形態 1～3年生とも通常学級の内容と同じものに取り組む。 - 本年度より1、2年生は、5教科の授業で通常学級に通級して取り組んでいる。 - 進路について - 課題について 「特別支援学級の生徒で普通高校を目指す生徒への手立て、支援体制はどのようなことが考えられるか」について協議。 ②参加者から意見・感想 - 通常学級の様子を見て交流を進める。 - 高校の過去の問題を取り上げて学習させる。 - 当生徒が可能な教科から進めていく。 ③講師より - 各教科等における障害のある生徒への配慮について - 授業は、「ねらい」を明確にする。 - 進路については、入試の最新情報を入手すること。 - 校内体制は、双方の理解と協力が大事である。 - 指導とは、「納得」と「自信」と「勇気」を与えゆくものである。			
次回例会	日付	会場校	内容
1月15日(火)		千葉市立山王中学校	今年度の取り組みの総括と次年度に向けて

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	11月例会	37名	高洲第三小学校
1. 講師 千葉県立こども病院 言語聴覚士 黒谷まゆみ先生 2. 事例検討会 ①事例1 サ行音がタ行音やシャ行音になってしまう児童の事例 サ行音がタ行音になったり、シャ行音になったりして安定しない。単音では正しく言えるが、連続音になると言えない。他者弁別はできるが、自己弁別ができない。sの摩擦音（風の音）はこのような舌でよい。 <参加者より> ・サ行音がシャ行音やタ行音になるということは、一貫性士であるから、直りやすいととらえる。 ・文字カードを使うなどして、視覚的支援をしながら音の弁別ができるようにしてから、発音指導に入るべき。 ・一音一音大切に音を出すように指導するとよい。 ・サスソ音とシ音は構音点の位置が違うので、一緒に指導はしない方がよい。 <講師の先生より> ・舌がまだ安定していないので、sの摩擦音がしっかり出せるまでは、舌を出した状態で（単語レベルまで）練習する。短文に入ったところに舌を入れるとよい。無意味音節では、その音に集中させるように練習すると良い。 ②事例2 ラ行音の習得が難しい児童の事例 1年間の校内支援を経て入級。キ・ケ・ギ・ゲ・キャ行音、ギャ行音・ス・ズ・ラ行音が困難。顎を広げる矯正中。6才臼歯をワイヤーで固定している。舌先の力が弱いため、ラ音が曖昧。強くするための方法を聞きたい。 <参加者より> ・ラ音とナ音の違いを教えるとよい。ナ音は構音点が一点だけ。ラ音は滑るように発音する。 ・舌に力が入っていて、不器用さを感じる。力を抜くラ音の練習をしてみてもどうか。 <講師の先生より> ・力が入って分厚い舌になっている。 ・アイウエオの母音の口形や舌の位置をもう一度確認した方がよい。 ・舌小帯を伸ばしたり、安静時の舌の位置を確認したり、舌を楽に使える方法を教えるとよい。 ③事例3 鼻咽腔閉鎖不全構音児童の事例 口蓋垂が二つに割れている。低身長の疑い。鼻から息が漏れた発音をする。習得に時間がかかるため、週2時間を設定している。学校では、10月まで平仮名を習得できなかった。作文でも誤り音による表記間違いが多い。保護者に病院を勧めてみたが、行こうとしない。ブローイングを行っているが、通級も休みがちでこのままでは6年間通級しても改善しないのではないかと不安である。どうしたらよい。 ・透明なグラスでストローを長くして本児が見えるようにブローイングをしてみたらどうか。 ・集中力が続かない児童であれば、透明なグラスの中に色紙で作った魚を入れて水族館のようにして、楽しんでブローイングに取り組める教材を使用してみる。 <講師の先生より> ・粘膜化口蓋裂の疑いが強い。改善するには、手術以外方法がない。扁桃腺が大きい。アデノイドがあるかどうか、耳鼻科、歯科、小児科の校医につなげてもらってはどうか。			
次回例会 日付	会場校	内容	
1月15日（火）	高洲第三小学校	検査法、相談について検討会 講話	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	11月例会	参加人数：17名	会場：千葉市養護教育センター
特別な支援を必要な児童生徒が、将来社会的職業的に自立するためには、 どんな力を身に着けることが必要なのか			
1 今日の流れについて説明 アンケートについての説明・回答 「キャリア教育」についての各参加者のイメージなどについてアンケートを行った。 2 グループ討議 「特別な支援を必要な児童生徒が、将来社会的職業的に自立するためには、どんな力を身に着けることが必要なのか」についてグループ討議を行った。参加者の意見を3つの障害（ASD、ADHD、LD）ごとに「キャリア教育」の4つの能力に分類し、必要な能力を確認し合った結果、どのグループも同じような傾向が見られた。 ・ASDでは、「人間関係形成・社会形成能力」と「自己理解・自己管理能力」がより必要という傾向が見られた。 ・ADHDでは、「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」がより必要という傾向が見られた。 ・LDでは、「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」がより必要という傾向が見られた。 3 講師指導 千葉市養護教育センター 主任指導主事 三橋 一裕 先生 ・今回の分類で、障害別に必要な力の傾向が出てきたが、障害を併せ持つ児童生徒もいるので、一人ひとりへの対応が大切となる。 ・4能力の「課題対応能力」は働くこと、「キャリアプランニング能力」は働くこと以外のことと分けて考えるとわかりやすい。 ・働く意味は、①人の役に立つ、②自己実現、③賃金であり、1つでも欠けると豊かな働くことにならない。この3つがあって「キャリア教育」と考える。社会自立とはライフワークバランスであり、職業自立と生活自立がバランスよく成り立っていることが大切であり、バランスは年齢によって変化する。 ・必要な4能力は年齢によって変わるのか →発達段階によるが、自己理解が進んでから「キャリアプランニング能力」の指導を取り入れる。 - 小学校低学年に夢について話をするのが「キャリア教育」の第一歩である。			
次回例会	日付	会場校	内容
1月15日（火）		千葉市教育センター	今年度のまとめ・来年度の計画

特別支援教育部会

**平成30年度
10月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	10月例会	31人	千葉市立磯辺第三小学校
内 容 : 授業研究 会 場 : 千葉市立 磯辺第三小学校 講 師 : 千葉市立 稲毛小学校 校長 吉岡 龍子 先生 提案者 : 千葉市立 磯辺第三小学校 山本 穂香 先生 单元名 : 生活单元学習 「かもめっ子すごろくを作ろう」 授業について 本時の学習問題「かもめっ子すごろくにいれたい写真を選んで、紹介しよう。」を確認した後、黒板に提示された以下の順番に沿って学習が展開された。 ① 写真を選ぶ（前時までに分類した写真の中から写真を選ぶ） ② 写真を紹介する（選んだ理由を交えて、自信をもって発表する） ③ 写真を貼る（すごろくに両面テープで貼る） ④ すごろくで遊ぶ（さいころを振る順番やルールを守って楽しく遊ぶ） ⑤ ふりかえり（にっこりマークとがっかりマークのどちらか自分の気持ちに近いものを選ぶ） 協議会より ・教材・教具（さいころ・マイク・すごろく）が工夫されていて、子どもたちがとても意欲的に活動していた。 ・児童特有の頑固さが出た際に、つきっきりで支援するのではなく、少し距離を置いて支援することも時には必要である。 ・児童が関わり合うことで、お互いがお互いを刺激し合っている様子が見られた。 ・自己選択する機会を普段の学習から与える。 ・学習発表会に向けて、3人のそれぞれの役割を明確にする必要がある。 講師指導 ・支援学級で行う生活单元学習について… 内容：児童の主体的な取り組みを引き出す 目標：仲間意識を高める。役割意識・責任感…など。 ・「自己決定・自己選択」は福祉分野（中等部や高等部に入ってから）で重要視。 主体的に選り取ることでできる子どもに育てることはとても大切。 ・支援学級の課題 少人数・実態が異なる児童での集団指導のむずかしさ			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月20日（火）	千葉市教育会館 大会議室 306・307	教材・教具の紹介、情報交換会	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	10月例会	59人	千葉市立松ヶ丘小学校

○授業者より

- ・いつも以上に学習に意欲的に取り組み、活動ができていた。
- ・一人一人に楽しさを味わわせたいと願い、単元構成・指導形態の工夫、場や教材の工夫を行った。一人一人実態が違うため、どの児童もたくさんボールに触れてシュートが決まるように手立てを考えるのが難しかった。



○グループ協議

☆単元構成・指導形態の工夫

良い点

- ・T1、T2の関わり方で役割がしっかり決まっていた。途中でT1とT2が変わることで、児童の意識に変化が見られ、その後の活動も意欲的だった。
- ・単元構成では学習の流れがわかりやすくなっていて、声掛けが少なくても児童が自主的に動き、見通しをもって行動ができていた。
- ・学習の途中でエンジョイタイムを入れたことで、ゲームで負けていた児童の気持ちがリセットされていて、次のゲームの意欲につながっていた。
- ・児童同士の関わりが優しく、良い雰囲気の中でゲームができていた。

改善点

- ・ゲームでゴールを決めた時に、チームのメンバー同士喜び合うことがあるとさらにコミュニケーションが増えたのではないかな。
- ・教師が笛を吹いて合図をするのではなく、タイマーなどで視覚的に活動時間を知らせるのもよいのではないかな。



☆場や教材の工夫

良い点

- ・エンジョイシュートタイムで、ボールをシュートする教材が良い。また、自分の手元に戻ってきて、取る練習もできていて、ゲームでも活かされていた。
- ・学習全体で運動量が確保されていて、良かった。
- ・パスが多くみられ、前半と後半のルールが児童にわかりやすかった。

改善点

- ・ねらえエリアでは、高さの違う的があると良い。
- ・ゴールの色を変えることで、自分のゴールの色を意識できたのではないかな。

○講師より

- ・豊かなスポーツライフの実現のために、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わわせることが必要である。
- ・運動遊びの面白さに夢中になれる授業、運動本来の楽しさを味わえる授業のために、手立てを考えていきたい。
- ・学年と児童の実態が異なる中で、的あてゲーム（的に当てる動き）とボール投げ遊び（攻めたり、守ったり）、そしてセストボール（勝敗を競い合う）を取り入れた学習を工夫して行っていた。

◎授業者の松ヶ丘小学校、高瀬先生、村尾先生ありがとうございました。

次回例会 日付	会場校	内容
11月20日(火)	千葉市立宮崎小学校	研究授業 体育科「サーキット運動」

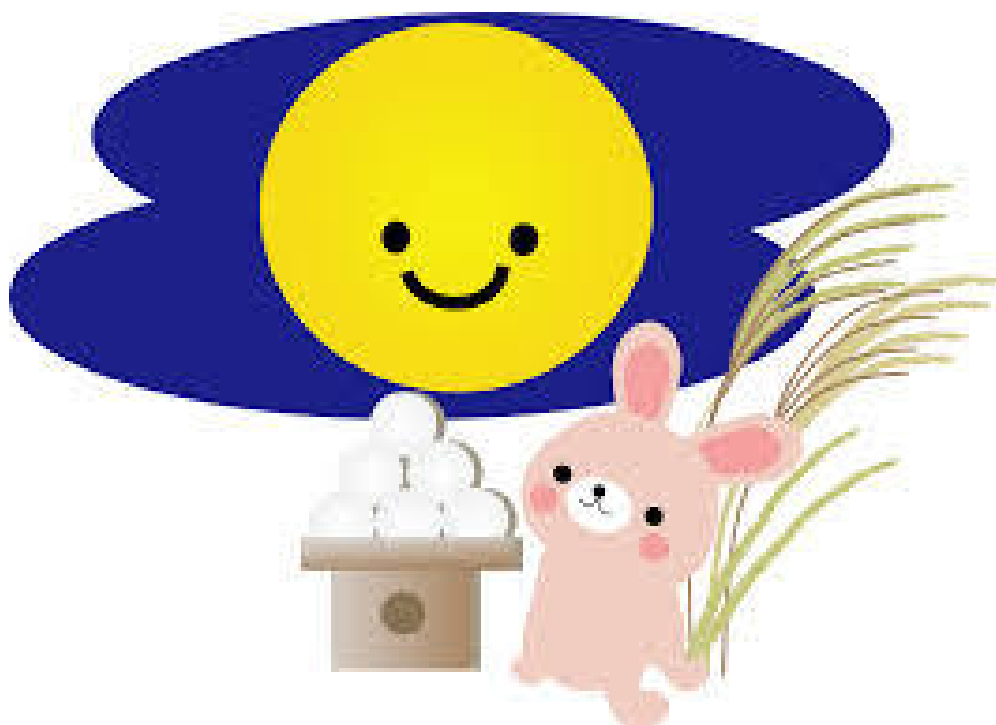
ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	10月例会	20人	千葉市立草野中学校
研修内容 1. 授業の見学 生活単元「げんきキャンプに行こう」 身につけさせたい力 (1) 基礎学力をつけ自分の意見や考えを持ち、適切な判断ができる。 (2) 自己統制力を養い、適切な行動をとることができる。 (3) コミュニケーション能力を育て、適切な人間関係がとれる。 (4) 達成感を持ち、自信を持って積極的に行動できる。 (5) 学習で身に付けた知識や技能を生活に生かすことができる。 授業者 小瀬 眞由美 種谷 大輝 講師 千葉市立稲浜小学校 千葉 直敏先生 2. 協議会 授業者より ・生徒の実態紹介 ・「自分で考える」「話し合い活動の充実」を主たる指導目標とした。 ・T2 を効果的に活用した。 参加者全員より感想、質問などを共有 ・的確な声掛けが素晴らしい。 ・普段から日常的に話し合い活動をしていることが、伸び伸びとした雰囲気から感じられた。 講師より ・T1、T2 で授業のねらいを定め、授業のねらいを生徒にも伝えることが大切。 ・教師は言葉かけを必要最小限にする工夫をし、教師が何も言わなくても生徒同士が活発な話し合いが出来るようになるとうい。 ・発言の仕方、授業のはじめ方などをルール化し、徹底させることが大事。できなかった時は、やり直しをさせ、できたらほめる。 ・生徒の呼名は、つい「〇〇ちゃん」などと親しみを込めて呼びがちだが、中学生らしく「〇〇さん」などにするとよい。 ・指導案の表記について、書き手の主観が入らぬよう、客観的な事実として記載をするとよい。 ・自分で考え、自分で行動できる力を生徒に日常生活の中で、生徒に考える場面を与えることが、自分で考え判断し行動する力を育むことにつながる。自己決定の機会を与えることも大事。			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月20日(火)	千葉市立椿森中学校	社会科の授業研究	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	10月例会	42人	院内小学校
生徒指導部会との共同開催 1 各ブロック自己紹介 特別支援部会 Cブロック紹介 生徒指導部会 菅田小 木澤校長先生より 子どもたちの共通理解 貴重な場に。 2 授業研究について ことばの教室 題材名「友達に知ってほしいな、私のこと」 授業者 出口 紘子先生 加瀬 太郎先生 講師 高瀬景子先生（養護教育センター） ＜これまでの授業をビデオで紹介＞ ・個別指導・学活（自分のいいところ・自分クイズ）の様子 ＜授業者より＞ ・本児は、日常生活で困っていないくらいの吃音症状である。一番仲の良い友達に吃音を指摘され、「こういう話し方だから仕方がない。」と返したが、そのことによって、他の友達も自分の話し方を「変だ。」と感じているのではないかと考えるようになった。「みんなに変だと思われているのではないか。」と思ってしまう不安が強いことが課題である。しかし、本児は、吃音を肯定的に捉えている。今日、みんなの前で語ることも楽しみにしていた。ずっと言えなかったことをやっと言えたという気持ちから、感極まったの涙だった。 ・本児の涙を見て、他の子も一緒に泣いていた。一人一人が本児の思いを受け止めていた。本児の語りを聞いて、自分のことを友達に伝えたくなくなった子もいた。吃音の理解授業ではなく、Cブロックのテーマ「ことばの教室に通う子が通常学級で生き生きと活動する姿」を目指していきたい。 ＜参観者より＞ ・子どもたちのつぶやきを聞きたい。 →「自分も今まで言っていなかったことが言えてすっきりした。」「語ることは勇気のいることかと思うが、教えてくれてうれしい。」改めて、今日の体験は良かったと感じた。 ・この授業を行うにあたって、気構えなどはあるか。「かわいそう。」と思わせない、マイナスの感情にならないための配慮は。 →まず先に、学活の時間に良いところを見つけ、伝え合う活動を行った。担当者と学級担任で指導計画を練り、吃音に対する質問大会や、学力・家庭・体に関することへの伝え合いにならないように軌道修正をする予定でいた。 ・本校では、対話の中からどのような学習が必要か考えている。他校での取り組みについて聞きたい。 →3年生の時に学級の担任の先生と連携を取って吃音について語った児童がいた。課題は、他校の先生とどう連携を取っていけばよいかである。 ・ことばの教室の1対1での信頼関係が素晴らしい。顔の見える連携が大切。中学では、吃音について保護者から聞くことが多い。小学校からの引き継ぎはないことが多い。学習で不利になることがないように、生徒に関わる教科の担当者全員が知っておく必要がある。本児のように早い段階から、心を育ててほしい。（生徒指導部会） →自分の中で「社会に出ても大丈夫」となることが目標。中学、高校と上がった時にも自分で暮らしやすい環境を整える力を育てたい。 ・中学校で教員に誤解されないためにも、まずは、担任に相談してほしい。（生徒指導部会） ＜生徒指導部会 植草校長先生より＞ ・自分のことを語れるのは、思春期前の今しかない。中1までにやりたい子には言わせてあげてほしい。小学校のうちに管理職と一緒に考えてほしい。高校入試などの将来を見通して、個別の教育支援計画を作ることも大切である。 3 講師：千葉市養護教育センター指導主事 高瀬景子先生 より ・今回の授業を行うことになった一番のきっかけは、本児の存在、思い。その思いを受け止めた母と出口先生と担任。このような出会いが良い方向に子どもを育てていく。担当者の願いだけでなく、担任としての思いも伝わり、良かった。 ・担当者が関わっているのは一部分。この子がどう学級で生きているのか全体像をつかむことが大切なので、担任に担当者が働きかけていけば、理解してくれる担任が増えていく。 ・周りへの伝え方については、メリットデメリットが必ずあるが、それでもメリットが増えるように一人一人対話しながら丁寧に考えてほしい。 ・大人側に語る姿勢も大事。吃音、かん黙などは、学校でのスピーチの評価や、受験でどうするのかなど保護者が希望すれば、自分のサポートブックとして、個別の教育支援計画を作成することもできる。 4 その他 連絡等 ・次回例会について・県特連秋季研修について・状況報告書の発送方法について共通理解 ・ことばの相談会、言難フォーラムについて			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月20日(火)	高洲第三小学校	事例検討会	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	10月例会	参加人数：19名	会場：千葉市立泉谷中学校
授業研究 花見川中学校 廣森先生 1 授業者より 千葉市立花見川中学校 「道德」 授業者 LD等通級指導教室 担当 廣森 貴恭 先生 ・主題名「いろいろな見方・考え方」 {道德の内容項目B－9相互理解・寛容}と{自立活動項目3人間関係の形成}の視点で主題設定をした。 ・ねらいとしては、自作資料「自分が待ち合わせ場所を間違えたのに、相手に怒ってしまった」場面を提示し、自らを省みることで、いろいろな見方考え方に気付くことである。 ・普段からかわりのないクラスで授業をさせてもらった。普段は発言が少なくおとなしいクラスだが、今日は自分から挙手して発言していた。 ・授業前半の「僕の気持ち」が書けない生徒が多かった。後半の「どうしたらよかったか」は自分の考えを書いている生徒が多かった。 2 質疑・応答 ・後半の「どうしたらよかったか」で「映画に間に合ってよかった」と書いている生徒がいた。少数意見も大事にできるとよかった。 ・このクラスに特別支援の必要な生徒がいたのか。→特別支援の生徒対象の授業ではない。自立活動と道德の内容項目で重なる部分から、どの子でも考えやすい内容で行った。 ・授業終わりに生徒たちの内的変化をみることができた。授業を組むときに担任とすりあわせや道德内容との兼ね合いを検討したのか。→特にしていないが、感想欄には、この授業でねらったことについての感想が多く書かれていた。 3 講師助言 千葉市養護教育センター 主任指導主事 三橋 一裕 先生 ・特別支援教育の内容と道德の内容を合わせて通常学級で授業を行ったことの大切さ。通常学級の担任なども一緒に授業を作っていくとよい。道德の授業に特別支援教育の内容を取り入れやすい。 ・表情カードを使ったことで、言葉で発言が難しい生徒も参加しやすかった。表情の解釈を伝えて確認しておくとうよかった。ロールプレイやグループ討議も検討するとよい。 ・高校受験の配慮受験が少しずつ広がっている。中学校での実績が必要なので、本人や保護者からの希望や学校の気づきから、養護教育センターにつないだり、諸検査や医療診断を受けたり、個別の教育支援計画の策定などですすめていく。 4 お礼の言葉 花見川第三小学校 川口先生 5 まとめ 諸連絡 ・11月例会について 11月20日（火） 事例検討 「特別な教育的支援が必要な児童・生徒が将来、社会的・職業的に自立するためには、現段階でどのような力を身に着けることが必要なのか」をテーマに、各先生から事例を出し合い検討する。			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月20日（火）	千葉市養護教育センター	事例検討	

特別支援教育部会

**平成30年度
9月例会報告**



ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
A-1	9月	24人	千葉市立磯辺第三小学校

内 容 : 指導案検討
 会 場 : 千葉市立 磯辺第三小学校
 講 師 : 千葉市立 稲毛小学校 校長 吉岡 龍子 先生
 提案者 : 千葉市立 磯辺第三小学校 山本 穂香 先生
 单元名 : 生活单元学習 「かもめっ子すごろくを作ろう」

授業者より

担任1名。児童3名

指導案検討の主な視点は、「自己選択の手立て」について。

参加者より

- ・「選択する」ということは、それぞれの価値がわかっていることが前提。子どもが価値を理解できるような声掛けを教師との対話の中で行う必要がある。
- ・すごろくは、一周して終わるまでに時間がかかる。時間が限られている学習発表会という場で、すごろくは適切な教材か。
- ・すごろくの面白さは、「どんなマスにあたるかな?」「いくつ進むかな?」など。せっかく子どもが準備しても、それが本番で生かされないのはもったいない。「写真が貼ってあるマスは必ずとまる」など、すごろくの作り方を工夫するのがよい。
- ・交流学級にほとんど行っている児童も、同じクラスの仲間。3人の繋がりを作るような手立てを日ごろから行うのがよい。

講師指導

- ・生単では、動機づけが大切。「こういう思いがある。だから、こういう活動をしたい!」と学習を進めていくのがよい。
- ・時配をしっかりと考えて授業を組み立てる必要がある。
- ・何を基準にして写真を選ぶのかをハッキリさせる。担任が子どもと対話しながら、基準を示してあげるのがよい。

次回例会 日付	会場校	内容
10月16日(火)	千葉市立磯辺第三小学校	授業研究・協議会 生活单元学習 「かもめっ子すごろくを作ろう」 千葉市立 磯辺第三小学校 山本 穂香先生 特別支援学級

ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
A-2	9月	41人	千葉市立松ヶ丘小学校



- 1 普段の授業の様子映像を、ビデオで見る。
- 2 授業者から、授業のねらいや手だて、教材について説明。
- 3 グループ協議
- 4 グループで協議した内容を発表する。

○場や教材の工夫

- ・山なりのボールを投げるために、目の前に壁と先にボールを入れるゴールを用意し、そこをめがけて投げることで身に付くのではないかと。また、投げ方について声掛けが必要である。
- ・低学年と高学年の力の差があるため、特に高学年が満足感を得られるようにゴールの工夫が必要である。備え付けのバスケットゴールを使用してもよいだろう。
- ・ビブスは、元気交流会で使用したようなゼッケンや、カラービニル袋を切ってビブスにする。その時にグループの児童に絵を描かせたり、チーム名を書かせたりするといいいのではないかと。

以上のことについて、グループで話し合われました。

次回例会 日付	会場校	内容
10月16日(火)	千葉市立松ヶ丘小学校	授業者 高瀬 遥樹先生、村瀬 香先生 学年 特別支援学級1・2・5・6年生 体育科授業研究 シュートをきめろ！セストボール風ゲーム

ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月例会	25人	ちば中央学園

ちば中央学園の学校見学

1 学校概要について 学園長より

通信制のサポート校で普通科、音楽科、通信科、個別指導科、社会人科がある。療育手帳があり、軽度の発達障害もあるが、板書ができる生徒向けの学習支援コースもあり、希望があれば、問い合わせしてくださいとのことであった。

2 授業参観

普通科の午後の学習コースで英語の文法の授業と音楽科でギターとベースのレッスンの様子を参観した。どちらの授業も複数の教員によって進められており、落ち着いた雰囲気の中で行われていた。

3 参加者アンケートより

- ・ 見学ができてよかった。進路選択の1つとして薦めたいと思った。
- ・ 特別支援学級の卒業生がサポート校進学後、どのような様子であるか見学できよかった
- ・ また、他のサポート校や放課後デイサービスなどの見学をしてみたい。

次回例会 日付	会場校	内容
10月16日(火)	千葉市立草野中学校	授業者 小瀬 眞由美先生 学年 特別支援学級 1・2・3年生 授業研究 生活単元学習「げんきキャンプに行こう」

ブロック名	○月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月例会	31人	千葉市立院内小学校
1 次回授業研究について ことばの教室 題材名「友達に知ってほしいな、私のこと」 授業者 出口 紘子先生 加瀬 太郎先生 講師 高瀬景子先生（養護教育センター） 2 指導案検討 ＜授業者より＞ ・学習を積み重ねる中で対象児は、自分の吃音と向き合って、課題に気づき、学級の友達に自分のことを語ろうと思うまでに至った流れを、担当者から伝えた。学級担任からは、Q Uデータを用いながら、学級の様子や学級の中の対象児の様子を伝えた。担当者、学級担任共に、本授業を学級作りの一環だと捉え、子どもたちが相互理解を図るきっかけとして行っていくと話した。 ＜参加者より＞ ・海外からの転入ということは、吃音ではなくても学級に馴染むことに時間がかかるのでは。本児の性格などももう少し詳しく知りたい。 →1年生の夏まで在籍し、2年生の2月に戻ってきたので、今の学級において、編入してきたことは関係ない。大人しいが、芯は強い。 ・Q Uはいつ取ったデータなのか。授業に向けて学級で事前指導等は行うのか。 →Q Uは6月15日実施。12月にも一度とる予定。道徳、学活で事前指導を行っている。エンカウンターや自分当てクイズを行う予定。この授業を行うことで、本児だけでなく、他の児童もQ Uの表の右上に上がってほしいと願っている。 ・学級の友達に言いたいと思ったきっかけは何か。 →3年時に担任の先生に、吃音について知ってもらい、安心した経験がある。学級の友達には伝えていないので、自分の話し方をどう思われているか不安が大きくなったため。 ・指導計画に、この授業の後、学級の友達とどうかかわっていくのか書いてあると良い。本児が自分を語ったことでより他の児童とのかかわりが深まるのではないか。 →「吃音なんだけど、頑張っている。」ではなく、苦手なことをお互いに言い合える学級にしていきたい。吃音が特例ではないと子どもたちの心が向いてくれたら。「実はさ、・・・」と自分のことを語る子が増え、それでもみんなが認め合える場があれば、本児も勇気が出せるのでは。 ・今回の授業は、きこえの理解授業を参考にしている。「もしかしたら、理解してくれない人もいる。」ということも保護者に伝えている。中学、高校で手が届かないところに行った時に自分から、言ってみようと思ってくれたらよい。 3 講師：千葉市養護教育センター指導主事 高瀬景子先生 より ・指導計画に学級で取り組むこと（3月までの年間計画）が入っていると良い。 ・本児の全体像が知りたい。ものの考え方、気軽、真面目、友達に知ってもらいたいのは吃音のことだけなのか、保護者はどう思っているのかなど。 ・人前ではなかなか言えないとも言える学級に。そのために、出口先生も加瀬先生も失敗談などを話しておくといい。児童が話しやすくなる。 4 その他 連絡等 ・次回例会について ・県特連秋季研修の申し込みについて ・ブロック研修について ・設置校校長会分科会報告 ・親の会の相談会、吃音相談会について			
次回例会 日付	会場校	内容	
10月16日（火）	千葉市立院内小学校	授業研究の提案② 題材名「友達に知ってほしいな、私のこと」 授業者 出口 紘子先生 加瀬 太郎先生 学年 通常学級 4年生	

ブロック名	○月例会	参加人数	会場
Dブロック	9月例会	16人	養護教育センター

10月授業研究 指導案検討(千葉市立花見川中学校)

1 指導案検討

① 授業者より 千葉市立花見川中学校 「道徳」

授業者 LD等通級指導教室 担当 廣森 貴恭 先生

- ・主題名「いろいろな見方・考え方」

{道徳の内容項目B-9相互理解・寛容}と{自立活動項目3人間関係の形成}の視点で主題設定をした。

- ・ねらいとしては、自作資料「自分が待ち合わせ場所を間違えたのに、相手に怒ってしまった」場面を提示し、自らを省みることで、いろいろな見方考え方に気付くことである。

② 検討

検討事項と意見

- ・話し合いやワークシートの使い方について
→学級の雰囲気にもよるが、ポイントを2つに絞ったワークシートを使うことで理解が深まると思う。意見を文章で表現させることで考えが深まると思う。
- ・自作資料の内容について
→内容的に「自分が怒る」表現ではないので文章を考え直すとよいと思う。提示の仕方は文章をモニターに映すだけでなく、絵を入れてインパクトを入れるとよいと思う。
- ・本時の指導にねらいの内容が入っているか
→ねらいがぼやけないように、ポイントを2つに絞るとより深まると思う。

2 講師助言 千葉市養護教育センター 主任指導主事 三橋 一裕 先生

- ・どのようなタイプの生徒をイメージして授業展開をするのかを絞るとよい。自己理解が進んでいない生徒をイメージするとわかりやすい。
- ・ポイントは、人の多様性を理解して、自分の考えを振り返ることと、どうしたらよかったかを考えることだと思う。そのためには、生徒たちの誠実な考えて出た意見は全部受け止めることが大切である。
- ・学級の様子をよく見て授業を組み立てるとよい。普段接していない生徒への授業の場合は、担任に事前に担任から生徒の実態を聞いておいたり、担任と一緒に授業に入ってもらったりするとよい。
- ・自作資料の提示の仕方は、画像と文字の両方を使うとよい。怒った顔とハッとした顔の絵を入れると効果的だと思う。

3 まとめ 諸連絡

- ・10月例会について 10月17日(火)

授業研究 千葉市立花見川中学校 「道徳」

授業者 LD等通級指導教室 担当 廣森 貴恭 先生

※駐車場有

- ・11月例会の内容について

6月例会で提案した通り、各校の実践事例を持ち寄りキャリア教育の4能力に分類する。

次回例会 日付	会場校	内容
10月16日(火)	千葉市立花見川中学校	授業研究 「道徳」 単元名「いろいろな見方・考え方」 授業者 LD等通級指導教室 廣森 貴恭 先生 通常学級 2年生

ブロック名	月例会	参加人数	会場
	8月例会	168人	千葉市生涯学習センター

講演会・座談会

「就労に向けて学校教育段階で身に付けておきたい力」

1 始めの言葉 (富井副理事)

2 挨拶 (木村理事)

3 講師紹介 (小林先生)

千葉銀行 特例子会社 ちばぎんハートフル 株式会社

取締役 白川 恒平 様

経歴 ・千葉県特例子会社 連絡会 幹事

・千葉労働局 職業安定部職業対策課 障害者就労アドバイザー

・千葉市立高等特別支援学校 学校評議員

パネリスト

・ちばぎんハートフル株式会社に2年目の勤務している千葉市立高等特別支援学校の卒業生

・千葉市立高等特別支援学校1年時担任、就労支援コーディネーター

4 講演

5 質疑応答

6 お礼の言葉 (木村理事)

7 講師退場

8 終わりの言葉 (千葉副理事)



【内容】

前半は、特別支援学校の卒業生を受け入れる特例子会社の事業内容や社員の夢や希望の実現に向けた支援、学校や家庭の取り組みに関する助言の話を頂き、障害者就労アドバイザーとして、個別の事例に応じた助言等をしていただきました。

後半は、特別支援学校を卒業し、ちばぎんハートフルで勤務している社員と特別支援学校の先生を混じえて、パネルディスカッションを行った。



次回例会 日付	会場校	内容
9月例会 9月12日	A—1 千葉市立磯辺第三小学校	A—1 指導案検討
	A—2 千葉市立松ヶ丘小学校	A—2 体育科学習指導案検討
	B 千葉中央学園	B 施設見学
	C 千葉市立院内小学校	C 授業研究の提案と指導案検討
	ことばの教室	D 指導案検討
	D 養護教育センター	

千葉市教育研究会 特別支援教育部会 8月合同例会

講演会・座談会

**「就労に向けて義務教育段階で
身に付けておきたい力」**

講 師 千葉銀行 特例子会社 ちばぎんハートフル株式会社

取締役 白川 恒平 様

ご経歴 ・ 千葉県特例子会社 連絡会 幹事
・ 千葉労働局 職業安定部職業対策課 障害者就労アドバイザー
・ 千葉市立高等特別支援学校 学校評議員

特別支援学校の卒業生を受け入れる特例子会社の取締役を務める一方で、障害者就労アドバイザーとして、行政や学校からの依頼で、教員・生徒・保護者を対象に講演会を開いたり、個別の事例に応じた助言を行ったりしている。

※ なお、当日はパネリストとして、現在、ちばぎんハートフル株式会社に勤務している千葉市立高等特別支援学校の卒業生の方や、同校で進路指導を担当された先生からお話を頂く予定です。

日 時 平成30年 8月22日（水）

会 場 千葉市生涯学習センター ホール

- ・ JR「千葉駅」から徒歩8分
- ・ 千葉モノレール「千葉公園駅」から徒歩7分
- ・ 千葉市中央図書館と同じ建物です。
- ・ 駐車場には限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。
- ・ 持ち物は特にありません。

特別支援教育部会

**平成30年度
6月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	6月例会	44人	千葉市立草野小学校

内 容 : 授業研究・協議会

1 授業研究 社会科 「学校のまわり」

2 協議会

①授業者より

- ・「特別支援学級の児童も、社会科を楽しんで学べるように」という思いや、自分たちの住んでいる町の様子や場所の把握をしておくことが必須であると考え、学校のまわりの巨大地図作りを行った。実際に授業を行うと、児童の実態には、やや内容が難しくなってしまった。

②教材・教具について

- 巨大地図作り、絵地図シール、ビデオ（視聴覚教材）等、児童が学習に興味をもって取り組める教材・教具が用意されていた。

③活動内容について

- 方角、学区探検、絵地図作り等、内容が盛りだくさんだった。児童の実態に応じ、活動の焦点化を図ったほうが良い。
- 「学校」を地図作りの基準にしていたが、「自分の家」を中心に地図作りを行うと、興味・関心や理解が深まったのではないか。

④講評(吉岡龍子校長)

○本日の授業について

- ・実態チェックリストがよくできていた。その実態から、個別の目標や評価基準をもっと具体的に、自分の学級に当てはまるように設定すると良かった。

○特別支援学級の授業作りについて

- ・繰り返しの活動の中で、学習のポイントを何回もおさえる。子どもの身近な生活に引き付けた題材を用意する。
- ・社会科…学んだことを実生活にどう生かしていくかがポイント。
- ・通常の教科の学習を、どう、特別支援学級用にアレンジしていくかがセンスと腕の見せ所。
- ・どういう能力が必要で、その力を付けるためには、どういうはたらきかけが有効か。→ここが、特別支援学級の授業の醍醐味。など

次回例会 日付	会場校	内容
8月例会 8月22日	生涯学習センター	教育講演会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	6月	37人	千葉市立新宿小学校

教材・教具の紹介



○4月から今までの学習の中で使用してきた手作りの教材、教具についての紹介や、児童の様子について伝えながら、情報を共有することができた。

※教材・教具の準備、ありがとうございました。

次回例会 日付	会場校	内容
8月例会 8月22日	生涯学習センター	教育講演会

ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
Bブロック	6月例会	25人	千葉市立幕張西中学校

ブロック別事例研究

<中央区>

A：他校の特別支援学校の進学状況、手立て

- ・生浜高校（夜間部）卒業⇒一般就労

（この生徒用にカリキュラムを組んで受験勉強に取り組んだ。夏休みも勉強しに来た。）

- ・わせがく〔推薦で合格〕（野球がやりたいという希望で）
- ・駿河高校（夜間）【王子】（手帳を取るのを拒否）

B：畑作業について・・・畑のお金（苗代、土、肥料）の工面。⇒消耗費、学級費、バザーの売り上げなどから。

C：人数も多く、能力差の大きい学級での工夫⇒低い生徒でも参加できる教具、教材の工夫

1. 通常の生徒への特別支援、支援計画等⇒校内委員会で支援計画を作り、保護者と面談。教科の合理的配慮）
2. 一人の生徒のおしゃべりが多く学級の雰囲気壊す。⇒動画を撮って見せる。（自分の姿を客観的に見られる。）保護者の許可の下、何度か注意して聞かない場合は別室（保護者にも状況を理解してもらう）
3. 普通高校受験時の調査書について⇒／（斜線）で対応し、備考欄に「特別支援学級に在籍のため」と記入
4. 自傷行為をする生徒への対応（自閉症スペクトラムの生徒など）・・・つめをちぎって血を出す、など
⇒何かお守りになるもの、場所を探してみる。他のことで落ちるけるものを探す。
5. 畑仕事をさぼる（ADHD）⇒10分間何セット、とかインターバルをつくる。休んでいい時間、さぼっていても見て見ぬふりの時間も必要。頑張れたら褒める。

<花見川区>

A：通知表の書式について⇒文章表記。キャビネット特支用通知表がある。道徳については？小学校でじゃ道徳が行われているので中学校でも実施したい。

B：個別の支援計画、指導計画について⇒アンケートを作成し、7月の面談時に提示。

C：高等部卒業を見据えて育てるもの⇒あいさつ、身だしなみ、時間を守る。など基本的生活習慣。かわいらしさや愛嬌を折らないようにしたい（サポートを得やすいように）

D：学級の教育課程について⇒教科主体＋作業。 体力作りなど帯でとる。応援の先生の有無にもよる。

1. 交流の基準、条件の提示⇒

- ・完全に別。体育祭では特支競技を行う（27人もいるため）交流学級なし。（松ヶ丘中）
- ・やってみて様子を保護者に伝え、どうするか本人の意向も。親が望んでも本人が望まないこともある。

2. 授業での工夫点

- ・理科、社会は週一回。地理では学区調べ。歴史はEテレの番組を録画して見せる。まとめのテストも。
- ・NHK for school、ネットの「ちびむすドリル」を活用。

3. 保護者との関わり⇒重い生徒との親とはラインやメールなどで頻繁に連絡がある。⇒距離感も

必要。

- ・悩んだ時は生徒指導担当や教育相談担当に相談している。

4. 学区内の小学校との連携⇒参観日に小中交流をしている。(さつきが丘中)

畑仕事に小学生を呼んだ。(横戸小・こてはし台小・こてはし台中)

5. 入学生がいないことでの閉級⇒なくなりそうな時、養護学校適の子を入れようとした(校長)
親の希望があればだが、いないなら閉級。

6. 就学奨励費について⇒事務がやる学校もある。

<若葉・緑区>

A: 会計システムについて⇒今までの使い方とかわらない。

B: 通常級との交流のし方(各校の交流の内容、実態について)

- ・普通学級の子が特支に遊びに来る。(特支に近い子) 特支からは通常には行っていない
- ・部活動での交流。⇒交流を始めてから自発的に動くようになってきた。
- ・交流を受け入れる側の理解によって左右される。その年、その年の生徒にもよる。
- ・合唱コンクール、単体のみ。 ・単体+交流クラス 親から「通常の子と関わらせてほしい」

1. 競技が苦手な生徒の指導法⇒実態に応じて種目を工夫する。マットで発表会。ダンス、エアロビなど。

2. 肢体不自由のある生徒の対応

- ・歩くことがやっとできる位になった生徒⇒すべての動きが遅い。制限される。
⇒松ヶ丘、袖ヶ浦から助言をもらう。
- ・肢体不自由の生徒がいる場合、支援員を養セに依頼したらどうか。

3. 療育手帳を撮りたがらない生徒・保護者について

療育手帳を持っていない生徒のこと

- ・親が障害を認めたくない。手帳によって幅が狭まる。親が障害を受容できていない。

⇒ハローワークの人に話をしてもらった。(障害者として就職するときのメリット)

泉高校からの編入の話・・・本人が荒れてしまったことで親が。

KTC など、卒業後のルート(サポート)が用意されているかが、カギになってくる。

高卒視覚をとりたい気持ちは尊重してもよいのでは? だめだったら手を考えておけばよいのでは。

将来の自立を考えると高校で生活することに不安を感じる。

保護者が変わらないのであれば仕方がない。

<稲毛・美浜区>

A: 通常級との交流のあり方、カリキュラム

- ・週1回、給食時に交流。全学年、親学級を決めている。(轟町中)
- ・特支に来てもらっている。(千城台西) ・そうじでの交流(真砂中)
- ・技能教科、給食時、行事などでの交流(幕張西中)・保護者から、別にしてほしいと要望(打瀬中)

1. 職場実習の実施状況

⇒能力により、2週間～1週間を目安に。基本的に中3のみ。飲食店など(真砂中)

3年対象で1週間ずつ(轟町中)

3日間(高浜中)

2. 放課後デイサービスについての情報

・スマイルアシスト・・・作業、勉強など

・いっぱい・・・学習支援、遊び ・ジョブサ、アライブ・・・お金の計算、調理

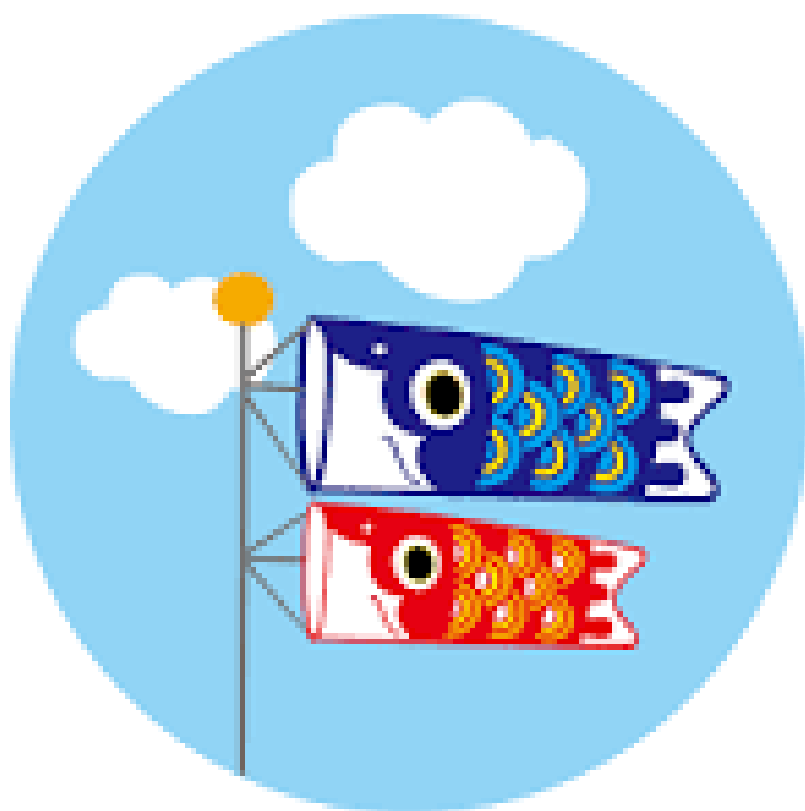
次回例会	日付	会場校	内容
8月例会	8月22日	生涯学習センター	教育講演会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月例会	35人	千葉市立院内小学校
1 授業研究 ことばの教室 グループ学習 題材名 レジリエンスを育てる 「スリーヒントクイズ」 授業者 T1 鶴岡瑠璃子先生 T2 渡邊美穂先生 T3 出口紘子先生 T4 大岩恵子先生 T5 松永美里先生 T6 前田隆先生 2 協議会 ○参観時に付箋を配り、レジリエンスについて・グループ学習について・その他という項目で書き込んだものを模造紙に貼り、それを元に協議した。 <授業者より> ・個別学習では話せていても、通常の学級では発表が苦手できなかったり、作文を書く時に困難を抱えていたりする子どもたちが今日のグループ学習に参加していた。毎回、グループ学習後のそれぞれの個別学習でも深め、ことばのやり取りの力をつけていけるようにしている。この授業を迎えるにあたって、6人の担当しっかりと情報共有をしてきた。 <参観者より> 質問 ・4つの窓やおはなしGOなどの活動について詳しく知りたい。→資料提示 ・グループのメンバー構成について詳しく知りたい。→吃音グループ参加者以外を対象 ・自分の学校のグループ学習ではメンバーが集まらない。どのような声掛けをしているのか知りたい。 →毎回同じ曜日に設定しないようにしている。保護者からことばのやり取りについての悩みが出てきたら勧めている。 ・子どもたちのレジリエンスをどのように見つけているか。 →ありのままの子どもを受け入れ、少しでも頑張れた部分に注目し認めていく。 感想 ・子どもたちが安心して発表できる場づくりができていた。 ・話せない子に対して、担当者が適切なフォローができていた。 ・参加者が多いグループを初めて見ることができた。活動の中で小グループにも分かれていて話しやすい環境だった。 ・カテゴリーカードが有効だった。 ・活動に対しての掛け声があり、みんなでまとまっている印象だった。 3 講師：千葉市養護教育センター指導主事 高瀬景子先生 より ・経験年数が0～4年の先生が多い。今日は意見が活発にやり取りできるように、付箋に書き出して協議してみた。発言者が増え、とてもよかった。 ・授業者の思いが良く語られていた。 ・今後グループ学習の発展として、「担当者が入らない小グループの話し合い」「理由を話すための接続語に注目して行う」「活動風景の写真を並べ替え、前時を振り返る」などやってみるとよい。 ・ことばのテスト絵本の問いかけの仕方など深めていきたい。 4 その他 連絡等 ・養護教育センターの就学説明会について ・全県調査について ・市特協について ・ことばを育む親の会より ・校内研究について ・吃音講習会と吃音親子サマーキャンプについて ・パラレルシートについて			
次回例会 日付	会場校	内容	
8月例会 8月22日	生涯学習センター	教育講演会	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	6月例会	20	養護教育センター
「千葉障害者就業支援キャリアセンター 施設見学」			
1 施設紹介 千葉障害者就業支援キャリアセンター向日様より ・施設の目的 ①障害のある方の就労を支援するため ②障害のある方を雇用する事業主の方を支援するため 障害のある方が就労を目指す時に、本人や保護者の心配や不安や職場の心配や不安をサポートする。 ・障害のある働きたい方への支援 - 相談業務 就労に関する相談 - センター内実習 センターで職業準備訓練 - 職場実習 職場での実習 - ジョブコーチ 実際に職場に入り、職場環境の整理・職場への定着サポート ・事業主への支援 - 相談業務 障害のある方の新規・継続雇用に関する相談 - 職場指導員の養成 障害のある方を雇用する際のノウハウを実際に現場で働く方に伝える - 各種助成金の紹介 障害のある方を雇用している事業主に助成金などのアドバイスをする ・障害のある方が社会参加を考えるとときに大切にしていること 人の手を借りずに生きることではなく、困ったときに人の手を借りることができて生きていけること ・企業の障害者雇用率が平成30年4月より2.2%になり、雇用する企業が増えている。企業側は障害者雇用への不安が大きい。障害者差別解消法などの法律を企業に説明し理解を得られるようにする、また障害のある人が差別を受けた時の相談場所としての役割も行っている。 2 質疑応答 ・支援対象者について 相談者の70%が精神保健手帳をもっている。そのうちの半数くらいは発達障害の疑いがある。 診断書や手帳を持っていなくても相談を受ける。一人ひとり、手帳をとるタイミングは違うが、就労したい場合は手帳を持っていれば障害者枠での就労が可能であるし、キャリアセンターが企業で支援をすることができる。 ・実際の支援で大事にしていること 本人の働きたいという気持ちが大切である。 学校では許されていたことでも、職場では良くない行動になる場合もある。 しきたりや暗黙のルールがあることを本人に伝える。同じ間違いを繰り返さないようにする。 「ほうれんそう」・「おあしす」・挨拶・朝ごはん・自分のことは自分で・仲良く・元気に。 仕事で怒られることは多いので、どんどん失敗しておくこと。 3 まとめ 諸連絡 ・8月例会について ・次回9月11日(日)15:30～16:30 指導案検討 養護教育センター ・11月例会の内容について			
次回例会 日付	会場校	内容	
8月例会8月22日	生涯学習センター	教育講演会	

特別支援教育部会

平成30年度 5月例会報告



A—1 ブロック

参加人数	3 4 名			
今回5月例会	協議内容	1 ブロック研究テーマ 「児童の実態に合わせた支援・指導の工夫～楽しい授業を目指して～」		
		2 年間計画（案）		
		日時	内容	会場
		6 月 19 日（火）	授業研究	草野小学校 大藤純也教諭
		9 月 11 日（火）	指導案検討会 （10 月例会）	磯辺第三小学校 山本穂香教諭
		10 月 16 日（火）	授業研究	磯辺第三小学校 山本穂香教諭
		11 月 20 日（火）	教材・教具の紹介 情報交換会	会場未定
		1 月 15 日（火）	特別支援学校教諭による学校紹介及び居住地交流等の実践紹介	会場未定
		稲毛小学校 吉岡龍子校長先生		稲毛小学校 吉岡龍子校長先生
		稲毛小学校 吉岡龍子校長先生		稲毛小学校 吉岡龍子校長先生
次回6月例会	会場	千葉県立草野小学校 ※ 極力公共の交通機関をご利用ください。		
		授業研究		

A—2 ブロック

5 月例会	参加人数 43 人	会場：千葉市教育会館
1 自己紹介		
2 年間活動計画の提案		
例会	内容	会場
4 月例会 4 月 24 日	顔合わせ	千葉市養護教育センター
5 月例会 5 月 15 日	年間スケジュール案 絵をかく会の教材紹介	千葉市教育会館
6 月例会 6 月 19 日	国語・算数の教材紹介	新宿小学校
8 月例会 8 月 22 日	教育講演 ちばぎんハートフル株式会社 取締役 白川 恒平 氏	千葉市生涯学習センター ホール
9 月例会 9 月 11 日	10 月の授業研究について 指導案検討	松ヶ丘小学校
10 月例会 10 月 16 日	☆授業研究 体育 松ヶ丘小学校 高瀬先生 講師 未定	松ヶ丘小学校
11 月例会 11 月 20 日	☆授業研究 体育 宮崎小学校 竹内先生 講師 都賀小学校 安川 晴信 校長先生	宮崎小学校
1 月例会 1 月 15 日	今年度のげんきキャンプ 実施内容報告会	新宿小学校
3 絵をかく会の教材紹介（グループに分かれて）		
次回 6 月例会	場所：新宿小学校 内容：国語・算数の教材紹介 持ち物：国語や算数の学習で取り組んだ教材 （今年度に限らず、前年度に実施したものや、皆さんに紹介したい教材をお持ちください。プリント、絵本、手作り教材 等）	

Bブロック

5月例会	参加人数	22名	会場：千葉市教育会館
1 自己紹介			
2 活動計画案の検討および承認			
○ブロックテーマ			
「個に応じた、“表現力”を育てるための支援の在り方」			
例会	内容	会場	助言者
5月例会 5/15(火)	年間活動計画の検討、承認 6月例会へのアンケート 顔合わせ	千葉市教育会館	
6月例会 6/19(火)	ブロック別の事例研究など 各ブロックで話し合いの報告	幕張西中学校	
9月例会 9/11(火)	施設見学 ちば中央学園	ちば中央学園(蘇我)	
10月例会 10/16(火)	授業研究 草野中学校 小瀬 眞由美先生 協議会	草野中学校	稲浜小学校 千葉 直敏 校長先生
11月例会 11/20(火)	授業研究 椿森中学校 植田 浩章先生 協議会	椿森中学校	稲浜小学校 千葉 直敏 校長先生
1月例会 1/15(火)	年間の取り組みを総括 次年度に向けて	山王中学校	
3 6月例会に向けてのアンケートのお願い			
担当推進委員 渡辺亮司			
評議員 花房正人			
次回 6月例会	場所：千葉市立幕張西中学校 内容：ブロック別の事例研究など		

Cブロック

Cブロック	5月例会	参加人数 30人	会場：養護教育センター																								
1 30年度のブロックテーマと研修計画について ・ブロックテーマ 「通常の学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」 ・30年度の研修計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>活動内容</th><th>会場</th><th>助言者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月19日(火)</td><td> ・授業研究① 高洲三小学校 きこえの教室 野村 絵美 先生 鷺澤 愛 先生 </td><td>高洲第三小学校</td><td>千葉県立 千葉豊学校 小高 裕子先生</td></tr> <tr> <td>9月11日(火)</td><td> ・指導案検討 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生 </td><td>院内小学校</td><td>養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生</td></tr> <tr> <td>10月16日(火)</td><td> ・授業研究② 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生 </td><td>院内小学校</td><td>養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生</td></tr> <tr> <td>11月20日(火)</td><td> ・事例検討会 </td><td>高洲第三小学校</td><td>千葉県こども病院 言語聴覚士 黒谷 まゆみ氏</td></tr> <tr> <td>1月15日(火)</td><td> ・事例検討会と講話 </td><td>高洲第三小学校</td><td>養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生</td></tr> </tbody> </table> 2 その他、情報交換など ・新規会員の自己紹介 ・各校の現状と課題について (子どもの人数や実態、それをもとに取り組みたい内容や頑張りたいことなど) ・千葉県特別支援学校設置校校長会事務局より ・県特連より ・千葉市ことばを育てる会より					活動内容	会場	助言者	6月19日(火)	・授業研究① 高洲三小学校 きこえの教室 野村 絵美 先生 鷺澤 愛 先生	高洲第三小学校	千葉県立 千葉豊学校 小高 裕子先生	9月11日(火)	・指導案検討 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生	院内小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生	10月16日(火)	・授業研究② 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生	院内小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生	11月20日(火)	・事例検討会	高洲第三小学校	千葉県こども病院 言語聴覚士 黒谷 まゆみ氏	1月15日(火)	・事例検討会と講話	高洲第三小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生
	活動内容	会場	助言者																								
6月19日(火)	・授業研究① 高洲三小学校 きこえの教室 野村 絵美 先生 鷺澤 愛 先生	高洲第三小学校	千葉県立 千葉豊学校 小高 裕子先生																								
9月11日(火)	・指導案検討 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生	院内小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生																								
10月16日(火)	・授業研究② 院内小学校 ことばの教室 出口 紘子 先生	院内小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生																								
11月20日(火)	・事例検討会	高洲第三小学校	千葉県こども病院 言語聴覚士 黒谷 まゆみ氏																								
1月15日(火)	・事例検討会と講話	高洲第三小学校	養護教育センター 指導主事 高瀬 景子先生																								
次回例会 6月19日(火)	会場：高洲第三小学校	内容 授業研究の提案①																									

Dブロック

Dブロック	5月例会	参加人数：20名	会場：養護教育センター																								
年間の研究計画作成 1 自己紹介 2 昨年度までの研究の経過 3 今年度の研究について (1) 特別支援教育部会研究主題 「特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の理解と指導のあり方」 (2) Dブロックのテーマ 昨年度のテーマから引き続き 「子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方 ～特別な支援が必要な児童・生徒のキャリア教育の視点から～」 (3) 年間計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 時</th><th>内 容</th><th>会 場</th><th>助言者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月19日</td><td>施設見学</td><td>千葉障害者就業支援 キャリアセンター</td><td>キャリアセンター職員</td></tr> <tr> <td>9月11日</td><td>指導案検討</td><td>養護教育センター</td><td>養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生</td></tr> <tr> <td>10月16日</td><td>研究授業 廣森 貴恭 先生</td><td>花見川中学校</td><td>養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生</td></tr> <tr> <td>11月20日</td><td>事例検討</td><td>養護教育センター</td><td></td></tr> <tr> <td>1月15日</td><td>今年度のまとめ 次年度の計画</td><td>養護教育センター</td><td></td></tr> </tbody> </table> (4) Dブロックで考えていく「キャリア教育」について (5) 活動費について 4 連絡 ○次回の確認				日 時	内 容	会 場	助言者	6月19日	施設見学	千葉障害者就業支援 キャリアセンター	キャリアセンター職員	9月11日	指導案検討	養護教育センター	養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生	10月16日	研究授業 廣森 貴恭 先生	花見川中学校	養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生	11月20日	事例検討	養護教育センター		1月15日	今年度のまとめ 次年度の計画	養護教育センター	
日 時	内 容	会 場	助言者																								
6月19日	施設見学	千葉障害者就業支援 キャリアセンター	キャリアセンター職員																								
9月11日	指導案検討	養護教育センター	養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生																								
10月16日	研究授業 廣森 貴恭 先生	花見川中学校	養護教育センター 指導主事 三橋 一裕 先生																								
11月20日	事例検討	養護教育センター																									
1月15日	今年度のまとめ 次年度の計画	養護教育センター																									
次回：6月例会	会場：千葉障害者就業支援 キャリアセンター	内容：施設見学																									